

# 「忘れられている海軍大将 山梨勝之進」

令和7年3月1日

横浜歴史研究会

古谷多聞

## I. 始めに

1. 「海軍オタク」と称している男が浮気を遣らかし6年連続「陸軍関連」を発表してきたが今回は初心の「海軍」に帰り、毎回例会発表のレジュメ末尾に記載している吾の歴史学習に於ける古人の金言の一つ「歴史とは只学ぶに非ず 歴史から何を学ぶのが肝要である」と述べた海軍大将山梨勝之進について発表したい。

2. 高坂正堯京大教授は「世界史の中から考える」の一節に「今日では山梨勝之進と言っても知らぬ人が多いと思が～」と記述しているが、では山梨勝之進とは一体どんな人物であったのか？ 今日では文献、参考書等には余り記載されていない山梨の海軍現役時代そして退役後教育者時代のエピソード、裏面の上っ面を従来同様各種文献から孫引きし話を進めたい。

3. 山梨は海軍トップの海軍大将に上り詰めたが、彼の経歴だけを見ると本当に武人=海軍大将\*1であったか？と疑問符が付くが、各界著名人の彼の人物評\*2を読むと彼の真の人物像が薄らと浮かび上がってくるのではないかと思料する。

・山梨の経歴、人間性<私見>については P8.P10 参照

\*1 山梨は本当の武人？ 日本海軍は77名の海軍大将を輩出したが(陸軍大将は134名)、海軍兵学校卒業者64名の海軍大将のなかで海軍士官の花形ポストである聯合(艦隊)艦隊司令長官、戦隊司令官、艦隊(戦隊)参謀長、海軍軍令部参謀、海外大使館付駐在武官、海外留学等を一度も歴任しないのは山梨只一人であって正に特異な海軍大将で「提督(Admiral)」と言うよりは「軍政家」「高級官僚」であったと言えようか！

\*2 各界著名人の山梨の人物評:

- ①「昭和天皇に最も信頼が篤かった人物」 :長與善郎(小説家)
- ②「戦史家、教養人 一介の武弁に非ず「戦争屋」を嫌忌」 :橋口 収(元公取委委員長)
- ③「外見はパツとしないが人格者 温厚で知恵のある紳士」 :秦郁彦(元拓大、日大教授)
- ④「体軀風采は上がらず一見田舎親爺の感があるが、卓越した事務的才能と数理的頭脳の持ち主で将来の海軍大臣候補の逸材」 :松下芳男(軍事史家)
- ⑤Royal Navy(英国海軍)の敬意=毎年山梨の誕生日(7/26)には海軍令部長名で祝電が寄せられる

## 4. 演題付記「忘れられている」について:「吾の拘り」

混迷、閉塞感、無定見が漂う昨今の日本の世情で山梨の揺るぎない確固たる信念、行動が再評価され且つその打開策の指針になるであろう点が数多ありと思料し敢えて付記したのは吾の拘りである。

## 5. <私事>吾にとって山梨勝之進は「海軍大将」ではなく「舎監先生」である:山梨勝之進舎監先生との邂逅

山梨勝之進先生と初めてお会いしたのは昭和39(1964)/3 吾が仙台の田舎から東京の大学進学時に仙台育英会五城寮(旧仙台伊達藩領域内出身者の学生寮)入寮試験の面接官の一人が海軍大将山梨勝之進前舎監先生であったと記憶しているが、面接場では何方が山梨先生であったかはとんと記憶が無い。その後山梨先生は学生寮公式行事(新入生入寮式、寮祭、新年成人式等)には必ずご出席され短い訓話をされるのが恒例で、先生の博学で慈愛に満ちた訓話に吾は感動し爾後「先生」と敬慕すると同時に「海軍オタク」の原点になったとも言える。しかし吾先生の精神を未だ知り得る事能ず「吾は山梨先生の不承の孫門下生、落第生、落ち零れ」と自認しており、慚愧に堪えない所存である。

## II. ワシントン海軍軍縮会議(大正 10(1921)11/12~大正 11(1922)/2/6)全権委員随員

1.大正 10(1921)/9/27 ワシントン海軍軍縮会議全権委員随員拝命 (前任:海軍省軍務局第一課長)

2.軍縮会議の日本の二大基本路線:

①主力艦対米 7 割の確保:対米漸減作戦.艦隊決戦主義の戦略上最低の必須戦力

②「太平洋防備問題」 :太平洋上の各国島嶼海軍基地の現状維持:主力艦比率問題と同位置付

3.主力艦比率は米英日 5:5:3 で決着・・詳細は平成 25/12 当例会発表「ワシントン海軍軍縮会議雑考」ご参照

4.「太平洋防備問題」に於ける山梨随員の功績:加藤友三郎首席全権(大将・海相)の片腕として条約締結に寄与

①米国の国民性を念頭に入れ対米軍縮対策「弾丸を撃たない戦争」を信条に米国と互角に渡り合う

②「米国の対日攻勢基地(グアム,フィリピン)の現状維持を図れば主力艦比率不足分は十分に補填出来る」と加藤友三郎首席全権に条約締結を献策 →加藤首席全権「締結受諾」の大きな要因となる

5.「ワシントン海軍軍縮条約」第 19 条「米国,英国,日本ハ各自ノ領土及属地ニ於ヒテ要塞及海軍根拠地ニ関シ本条約ノ時ニ於ケル現状維持スヘキコトヲ約定ス」

⇒①日本は米国本土,ハワイ⇔グアム,フィリピンとを結ぶ戦略戦線を遮断し米国の太平洋西進拡張,覇権阻止に成功

②日本の成果は 1 勝 1 敗 1 敗=主力艦比率 7 割の未達

1 勝=米国の太平洋西進拡張,覇権を阻止 ・・「名を捨てて実を取る」の好例

<参考>山梨曰く「国際会議とは、参加国が皆不公平であればその会議は成功と言わねばならず

どこか一か国でも得したという国があれば それは不成功と言わねばならず」

・・大岡裁きの「三方一両損」か!

<私見>「ワシントン海軍軍縮条約」は主力艦比率問題だけが大きく取り上げられているが、「太平洋上の現状維持締結」は主力艦比率未達を補完する以上の成果で、山梨随員の功績は大いに評価されて然るべきであると思料する

<余談>対米 7 割,対米強硬論者元海軍軍人評論家の山梨評:「会議での日本は終始一貫譲歩譲歩(注:主力艦比率未達)で終わった中で唯一の収穫は太平洋防備問題である」と山梨随員の業績を称賛

6.山梨の米国民性の直視眼・対米交渉

(1)①国民は Puritanism・Frontier-Spirit・Pragmatism を併有

②政体,宗教は自由 国土は広大且つ資源は豊富・・一言で言うと「金持ちの息子」である

(2)①上品で綺麗な所があり神様みたいに言う時がある

②野次馬で破落戸みたいに振舞う時もあり と国民には矛盾が内包

<私見>米国新大統領 Trump はその典型的な人物か!

(3)対米交渉では今の相手が①の神様なのか ②の破落戸なのか

を冷静に見極め、慎重に対応する要があり決して楽な交渉相手ではない と対米交渉の困難さを強調

・・山梨は正に「Radical な知米派」と言えようか!

(4)山梨の米国民性の直視眼の原点:

海軍兵学校入学前故郷仙台の東華中学校(ミッションスクール・初代校長は新島襄)学生時代に米国人教師(宣教師)を通じて米国の歴史,文化,宗教等の勉強で培われたものであろうか!

(5)戦後の日米関係について:「不幸な戦争」

「今日の良好な日米関係は軍縮問題(注:ワシントン,ロンドン海軍軍縮会議)から最近の不幸な戦争(注:太平洋戦争)を卒業しなければ達成出来ず」:昭和 36/11 海上自衛隊幹部学校講話

<余談>昭和 50 年昭和天皇訪米時にフォード大統領主催歓迎晩餐会での天皇の返礼のスピーチ

:「深く悲しみとする不幸な戦争は～」は山梨の語句を引用したものか!

### Ⅲ.山梨海軍次官 ロンドン会議.条約締結で労苦

本稿は昭和 5/3/13「松平・リード妥協案」成立後条約締結まで、東京で留守居役をしていた山梨海軍次官の苦闘を特記

山梨勝之進 昭和 3(1928)/12/10 海軍次官拝命

・ ・ ・ ロンドン会議(昭和 5(1930)/1/21~4/22)の詳細は平成 28/10 当例会発表「悲劇のロンドン会議」ご参照

#### 1.山梨次官 会議全権団結成前に超党派外交を具申

①外交交渉に当たって国論統一の為、国会議員(与党=民正党.野党=政友会)からも随員派遣を具申

<参考>米国は全権団に共和・民主両党議員を受入

②川崎貞吉内閣法制局長の反論で山梨具申は却下される

<反論理由> i 反対党は党利党略に駆られ政争の具=倒閣運動に利用する懸念があり

ii 日本の政党は米国の超党派外交をするまでには成熟しておらず時期尚早

#### 2.山梨次官 会議開催中は実質海軍トップ(海軍大臣)の立場で海軍省を仕切る

(注:財部海相は全権として訪英中)

(1)昭和 5/3/14 全権団「妥協案/請訓」を外務省に発信

〃 3/15 「請訓電報」濱口雄幸首相から海軍省=山梨次官に手交

(2)山梨次官「請訓電報」受領時の回顧談:

①松平・リード会談の進捗状況は外務省から海軍省に一切の事前報告無し・ ・ ・海軍省は「蚊帳の外」!

②「妥協案/請訓」の到来.内容については「余りにも唐突」と困惑

<私見>外交交渉は外務省の特権であるとする自己過信.尊大による海軍軽視か!

#### 3.「妥協案」に対する海軍省・海軍軍令部の見解

海軍省:「妥協案・諾」已む無し

<理由>①日本財政事情の逼迫=国防費は国家予算の 40%超を計上

②国際協調路線の推進=国際世界からの孤立回避

海軍軍令部:「妥協案・否」

<理由>日本の基本路線「三原則」の全面的否認

→海軍内部(海軍省 vs 海軍軍令部)が対立し、後の「条約派」vs「艦隊派」の分裂が萌芽

#### 4.山梨次官 「海軍軍人の立場」・「内閣閣僚の一員としての立場」で板挟み

①海軍軍人の立場:「三原則の否」は日本の対米戦略上海軍軍人として簡単に Yes とは言えず

②海軍次官の立場:濱口内閣の閣僚の一員としては首相の施政方針には従属せねばならず

<私見>「忠ナラント欲スレバ孝ナラズ 孝ナラント欲スレバ忠ナラズ」と正に平重盛の心境か!

#### 5.山梨次官 条約締結に向け孤軍奮闘

① 海軍部内の分裂回避の為に海軍省・海軍軍令部の一体化.結束を強調.力説

② 強硬派海軍軍令部を説得し海軍内部分裂の外部への露呈防止、政府と海軍との対立回避に奔走

③ 強硬派東郷平八郎元帥(時の海軍大御所)、伏見宮博恭王(時の海軍最高権力者)にも経過事情を説明し説得に努める →此の時点では両者とも「妥協案・諾」を了承?

④ 濱口首相に「山梨次官陳述書」を提示し、条件付きで海軍は「妥協案・諾」を表明

⑤ 昭和 5/3/31 財部全権宛「財部の立場=全権か海軍大将海軍大臣か」で自重協調懇願の電文を発信:

「~国家大局ノ上ヨリシテ忍ヒ難キヲ忍ヒテ御自重 ~懇願スル次第ナリ」

・ ・ ・本人曰く「私が血を吐くような電文」

<余談>①山梨次官の財部全権宛慰撫電文は「上司に対する慰撫.懇願.説諭.説得等の最高のお手本である」と評価する人もあり

②昭和 20/8/15 昭和天皇の終戦勅語「堪へ難キヲ堪へ忍ヒ難キヲ忍ヒ〜」は山梨次官の財部全権宛電文「忍ヒ難キヲ忍ヒテ〜」を引用したものか!

昭和 5/4/1「妥協案・諾」閣議決定後 濱口首相上奏し裁可

〃 4/22「ロンドン条約」調印

7.その後条約批准国会では野党政友会の党略で「統帥権干犯問題\*」が突発・・・一部海軍軍令部も加担  
 →山梨次官への風当たりが強まる

\*「統帥権干犯問題」についての山梨の見解:

「会議の比率論争は国内の政争=統帥権干犯問題に転化され、会議の問題は政治的フットボール (Political Football)に鞍替えした」

8.昭和5/6/10 山梨次官「海軍次官職」を退任

<余談>山梨次官 次官退任時を回顧

- ① 海軍人事は海軍大臣の専行事項であり、今話せば自己弁護にもなり黙して語らず
- ② 統帥権は憲法問題(枢密院管轄)であり、海軍内部では興味も無く研究もせず  
 <私見>「軍人は政治に関与せず」の典型
- ③ 「統帥権干犯問題」は政友会が倒閣運動に利用したものである  
 <私見>山梨勝之進 生涯唯一の政治的発言と思料する
- ④ i 海軍内部の分裂抗争が内外に及ぼす影響  
 ii 10年後に開催予定の軍縮会議に於ける日本の立場等 を考慮し公表せず
- ⑤ ロンドン条約問題は後世の識者、歴史家等が判断を下すであろう  
 ・・山梨は真相の公表を拒み一切の弁明もせず、海軍の伝統である”Silent Navy”を守り  
 海軍次官を退任 <私見>山梨の心境は正に「明鏡止水」か!

<番外編-1> 山梨の「軍縮」とは

- ① 軍縮問題は何時の時代でも国家経済を左右し、更に多国間の和睦にも至大な影響を及ぼす大きな問題である
- ② 日本海軍の軍縮は対米国\*であり、「弾丸を撃たない戦争」と位置付けし平和的前奏曲と見做す  
 \*日露戦争後日本海軍は米国を第一の仮想敵国と位置付け
- ③ 加藤友三郎大将の「国家戦略(国家防衛)論\*」を継承  
 i \*「国家戦略論」:「国家ハ軍人ノ専有物ニ非ズ 戦争モ又軍人ノミニテナシ得ベキモノニ非ズ」  
 ii 国防の本質は”Fleet in Being”=艦隊現存主義であり、軍艦は戦争の抑止力として価値がある  
 ・・現代で言えば「専守防衛」か!

<番外編-2>「条約派・良識派」山梨勝之進と山本五十六、堀悌吉、古賀峯一との繋がり

山梨勝之進 25	海軍大学校/教官(中佐)	軍務局第一課/課長(大佐)	海軍省/次官(中将)
山本五十六 32	学生(大尉)	第二課員(少佐)	倫敦会議随員(少将)
堀 悌吉 32	学生(大尉)	第一課員(少佐)	軍務局長 (少将)
古賀 峯一 35	学生(大尉)	第一課員(少佐)	省先任副官 (大佐)

1. 山本五十六から堀悌吉宛の書簡

- ① 「矢張り山梨さんが言はるる如く海軍自体の慢心に弊るの苦境に一旦陥りたる後 立て直すの外なきに非ざると思はしむ～」  
 ・・昭和9/12/9付堀悌吉の予備役編入を聞いて
- ② 「～大勢は既に最悪の場合に陥りたと認む 山梨さんではないがこれが天なり命なりと情けなき次第なるも～」  
 ・・昭和16/10/11付真珠湾攻撃を控えて

2.その他山梨と山本、堀との繋がり

- ① 山本が聯合艦隊司令長官として真珠湾攻撃について自分の苦衷を山梨に発露  
 →山梨は「デスティニー(運命)だから仕方あるまい」と慰撫
- ② 「山本、堀は退役後の山梨大将に依然として兄事」・・・平川裕弘「平和の海と戦いの海」
- ③ 「山本、堀は真夜中に山梨氏の門を叩く」・・・橋口収「饒舌と寡黙」

#### IV.山梨学習院長 昭和天皇の「人間宣言」起草の黒衣役(産婆役)を務める

山梨勝之進 昭和 14(1939)10/7 学習院長に就任

##### 1. 「人間宣言草案メモ.作成過程メモ明らかに」:平成 18/1/1 付「毎日新聞」の一面トップ記事

<記載内容>

(1)①「英文草案」全文 306 語・P9「人間宣言」草稿ご参照

②欄外に山梨勝之進.ブライス(学習院英語教師).GHQ 民間情報教育局員 2 名の名前が記載

(2)「作成過程メモ」:山梨院長の自筆

B 作成→(山梨)→宮内大臣→㊦→宮内大臣→次官/浅の→(山梨)→(吉田外相)→首相→吉田外相  
→次官→浅の→(山梨)→B 氏→GHQ 民間情報教育局 2 名→Mac→Approval of Mac→B 氏→  
浅の→(山梨)→宮内相.次官→㊦→首相→Cabinet Council→Bond

(注) B 作成.B 氏=ブライス・宮内大臣=石渡荘太郎・㊦=昭和天皇・次官=大金益次郎

浅の=浅野長光・吉田外相=吉田茂・首相=幣原喜重郎・Mac=マッカーサー元帥

Approval of Mac=マッカーサー元帥の承認・Cabinet Council=閣議・Bond=詔書

① ブライス: i 山梨院長の力添えで学習院英語教師となり、生涯山梨院長を兄事

ii 第二の小泉八雲と称され、勲四等瑞宝章受章

② 浅野長光:当時学習院庶務兼会計課長で山梨院長の秘書的存在

<私見>「作成過程メモ」には山梨院長の名は記載されていないが、(山梨)は筆者挿入箇所

この時点で山梨院長が介在していたのではなかろうかと推測する

<参考>木下道雄侍従次長の「側近日誌」(昭和 20/12/23 付)には

ダイク(GHQ 民間情報教育局局長)→山梨→ブライス→石渡→○(注:昭和天皇)→幣原→鈴木と  
山梨院長の名が明確に記載

##### 2. 「人間宣言」起草までの流れ:平川裕弘東大教授の臆測・「平和の海と戦いの海」から

① 山梨院長: i 天皇制の存続.天皇の退位問題を危惧し GHQ の方針.出方を模索

ii ブライスに密使的役割を担わせ GHQ の方針.出方の探索を指示?

② ブライス:GHQ 民間情報教育局局員ヘンダーソン\*との日本文学研究会では日本文学から天皇制に  
についても話題が発展か!?・・・天皇制の問題提起は山梨院長の差し金か?

(\*ブライスとヘンダーソンとは日本文学(俳句.禅等)を通じて旧知の仲)

③ 山梨院長:天皇制について GHQ の方針.出方を依然として把握できず焦燥感が募る

④ ブライス:ブライス案を提案=「日本側から「天皇の神格否定」を勅語.詔書等で宣言し内外の誤解  
を解消する事が得策である」・・・GHQ の指図か?

⑤ 山梨院長: i 「山梨案(ブライス案)」を石渡宮内相に提示

ii 内相は良心的に不本意とし「山梨案」に不同意

⑥ 松平慶民宗秩寮総裁:「山梨案」を昭和天皇に言上 天皇「山梨案」に賛意

⑦ 山梨院長:詔書作成に向け本人自ら日本政府筋に接触開始

山梨→ブライス→GHQ 民間情報教育局→マッカーサー元帥

##### 3.昭和 21(1946)1/1 昭和天皇「新日本建設に関する詔書(=「人間宣言」)

・・・戦後復興に向け、国民の団結と平和国家建設を呼掛け

昭和天皇の行幸が開始(初回は昭和電工川崎工場)

##### 4.山梨院長の心境

「動かずして変ず なすことなくしてなる」

山梨.ブライス両氏とも「人間宣言」起草の関与については固く口を閉ざす

## V. 山梨学習院長と平岡公威(作家三島由紀夫)との出会い

三島の自伝的小説「仮面の告白」に学習院長山梨をモデルとした箇所・・同誌から抜粋

- ①「校長は女性的な性格を持った老海軍大将で、宮内省を後楯にノラリクラリした当り障りのない漸進主義的で彼の地位を保つ～」
- ②「目脂が溜まった陰気な年寄が「これもデステネイだよ」と彼は老婆心と思われまいと警戒する老人特有の羞恥の窺われる無関心さでこう単調に繰り返した～」

上記②は三島が昭和 19/9 学習院高等科を首席で卒業し恩賜の銀時計を拝受しその御礼言上に宮中参上途中の車内での山梨院長と三島との会話を描写したもの

<私見>三島は山梨院長に激しい嫌悪感.加虐的.悪意に満ちた描写をしているが、これは三島が昭和天皇の「人間宣言」に拒絶反応があり、山梨院長がその「人間宣言」に深く関与していたとする不信感からそういう筆になったのではなかろうかと臆測する

<余談>山梨の山本五十六.三島由紀夫に対する”Destiny”の言い回し

学生寮(五城寮)先輩の懐古談「人が個人の力ではどう仕様もない不運な境遇に陥り挫折感を感じている時に、先生が運命とか宿命を意味する”Destiny”と言う言葉をよく使われたが、先生の深い人生観.宗教観から発せられるこの言葉には妙に人を納得させる響きがあった」

## VI. 「昭和天皇に最も信頼が篤かった人物」

長與善郎談「昭和天皇に「重臣.軍人の思い出で一番篤くご信任されたのは何方か?」と尋ねると陛下は言下に「山梨勝之進」と答えられた

御信任の根拠<私見>

:山梨の役割

- ① 戦後「天皇制の存続」「天皇の戦犯忌避」「人間宣言」等の諸問題でGHQとのパイプ役を果たした事
- ② 現上皇皇太子時代に学習院長.東宮御教育参与として皇太子の御教育の任に当たられた事
- ③ 現上皇皇太子時代の英語家庭教師に米国人ヴァイニング夫人を推挙した事

:昭和天皇の山梨に対する追憶

- ① ロンドン条約締結批准国会で海軍次官山梨の苦悩.労苦を誰よりも一番理解されていたのではなかろうか?
- ② 昭和天皇皇太子時代初の欧州各国巡遊の時(大正 10 年)の日程.御召艦.航路選定等で宮内省と折衝した当時海軍省第一課長であった山梨の実直な能吏の姿を記憶していたのではなかろうか?

<私見>

- ① 究極的には山梨は只篤実.誠意.純真等をもってお仕えした事が昭和天皇から篤い信頼が得られたのではなかろうか臆測する
- ② 君と臣との交わりは正に「君子交淡如水」であったのであろうか?  
・・明治天皇と時の侍従山岡鉄舟との関係も、昭和天皇と山梨勝之進との交わりと相似たり  
<余談>山岡も山梨も朝敵側出身の人間とは偶然の一致か!
- ③ 現上皇皇太子時代に美智子上皇后とのご成婚話の時には、昭和天皇から山梨に事前に何らかの相談があったのではなかろうかと臆測する

<余談>山梨は座談中「昭和天皇に最も信頼が篤かった人物」の話題が出ると、意図的に他の話題にすり替えしたとの由 正に”Silent Navy Sprit”に徹す

## VII. 皇太子(現上皇)の家庭教師に米国人ヴァイニング夫人推挙の経緯

1. 昭和 21(1946)3/26 昭和天皇 GHQ 教育使節団長に皇太子(現上皇)の英語家庭教師(女性)推薦を依頼
2. ① 宮内省から山梨学習院長と穂積重遠東宮御教育参与両氏に皇太子の家庭教師問題について下問  
② 当初両氏は共に米国人女性招聘に反対し英国人採用を言上するが、昭和天皇は無言であったとの由
3. 山梨院長 米国側と直接交渉

<雇用条件>

- ① 健康で教養が高く高潔な人格の持ち主で 40 歳前後の女性
  - ② 既婚未婚は問わず 日本語は分からずとも可
  - ③ 報酬は月 2,000 ドル 生活費は宮内省負担
  - ④ 1 年毎の契約更改等
4. 米国から 2 名の候補者が届くが、山梨院長はヴァイニング夫人\*を推挙

\*Elizabeth Janet Gray Vining(1902(明治 35)~1999(平成 11))

:ペンシルベニア州フィラデルフィア出身の司書・作家

クウェーカー教徒の未亡人で当時 44 歳

5. 昭和 21(1946)10/15 ヴァイニング夫人来日(横浜港着)

6. 〃 10/17 天皇皇后両陛下に拝謁後のヴァイニング夫人を宿舎玄関先で歓迎

7. その後山梨は慈父の如く同女史の良き相談相手となる

8. 昭和 25(1950)12/4 ヴァイニング夫人米国に帰国・・・日本に 4 年滞在 勲三等宝冠章受章

<私事>吾が過ごした学生寮(五城寮)にヴァイニング夫人が来訪された時の記念写真 P9 ご参照

9. ヴァイニング夫人の山梨像・・・「最後のサムライ」 <私見>最後のサムライ=古武士(モノノフ)

同女史著「皇太子の窓」から抜粋

- ① 「山梨氏は、～古い象牙の彫刻などに見かけるあの円熟してしっかりとした、然も温情に溢れた顔をしている～」
- ② 「その眼を相手の身辺に転ずると、その相手はこの優れた人間通に自分と言う人間を見抜かれてしまった事を直感するものであった～」

<番外編-1>山梨院長 日本の敗戦を予期:「野火烧不盡 春風吹又生」

山梨院長 終戦直前(昭和 20/6)高木惣吉少将と出会った時、白楽天「賦得古原送別」を詠む

<私見>山梨院長 日本の敗戦を予期し「和平工作を推進せよ」とのシグナルであり、又戦後の日本再生を展望か!

<番外編-2>「私はもともと仙台の泥鰌と鰻と鯰の間で育ったので根っから偉いのではない～」

:「山梨勝之進遺芳録」

<私見>①山梨院長の謙虚さの自己表現か!

②先年「どじょう内閣」と称した総理大臣が居たっけ!

<私見-1> 孫門下生・落第生から見た山梨勝之進先生は

① 海軍現役時代	組織人・纏め役 国士・憂国の士 国家戦略家	
② 海軍退役後	教育者 : 学習院長, 五城寮舎監, 海上自衛隊幹部学校講師	
③ 歴史上の人物に例えれば	豊臣秀長 : 豊臣秀吉の参謀役	
④ 分野	先生の位置	花形のポスト
i 軍人	知将・智将・政将(軍政家)	名将・勇将・闘将
ii 海軍	海軍大臣(山本権兵衛, 加藤友三郎, 斎藤実の後継者か?)	聯合艦隊司令長官
iii 戦国時代なら	軍師(竹中半兵衛?か)	殿様, 侍大将
iv 内閣なら	副総理=外務大臣, 官房長官(後藤田正晴か?)	総理大臣
v 政党なら	副総裁, 幹事長, 総務会長	総裁, 代表, 党首
vi 企業なら	副社長(藤沢武夫, ホンダ副社長か?), 相談役	CEO, 社長
vii 大学なら	名誉教授	総長・学長
viii プロ野球なら	ヘッドコーチ(巨人 V9 時代の牧野茂か?)・GM	ホームラン打者
ix プロ野球の花に例えると	月見草?=野村克也	ひまわり?=王・長嶋
x 映画なら	脚本家 脇役(志村喬, 笠智衆?)	監督(黒澤明?) 主役(三船敏郎・渥美清?)

① 表舞台に立つ事は無く常に裏方, 黒衣に徹していたが、山梨先生が居なければ事は運ばず  
正に「縁の下の力持ち的な人物」であった

② もし海軍兵学校に進学していなかったら

旧制高校→帝国大学理学部→理学部教授(理学博士)→名誉教授, 日本学士院会員, 文化勲章受章者?

<私見-2> 海軍条約派・良識派の系譜・・・山梨勝之進先生の後継者

氏名	出身地	職位	在任期間
山梨勝之進大将 25 ↓	宮城県仙台市 (旧仙台伊達藩)	海軍次官	昭 3/12~5/6
米内 光政大将 29 ↓	岩手県盛岡市 (旧盛岡南部藩)	海軍大臣	(第一遣外艦隊司令官/少将) ・昭 12/2~14/8 ・昭 19/7~20/11
山本五十六大将 32 ↓	新潟県長岡市 (旧越後長岡藩)	海軍次官	(赤城艦長, ロンドン会議随員/大佐) ・昭 11/12~14/8 (昭 18/4 戦死)
井上 成美大将 37	宮城県仙台市 (旧仙台伊達藩)	軍務局長 海軍次官	(駐伊大使館武官, 海大教官/中佐) ・昭 12/10~14/10 ・昭 19/8~20/5

1. 四人の共通点

① 出身地が明治維新戊辰戦争では朝敵(賊軍)側

② 海軍部内では薩摩海軍その後「艦隊派」には、良識・国際協調(=「条約派」・「良識派」)で対応

・別の見方からすれば、薩長藩閥に対する朝敵側出身者の反骨精神の発露か?

2. ① 米内大臣・山本次官・井上局長=左派トリオと擬せられ日独伊三国同盟締結に反対し陸軍に対抗

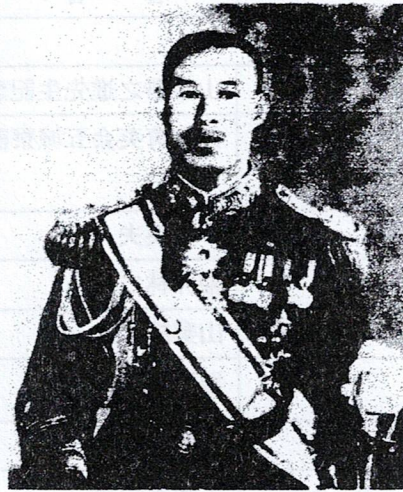
② 米内大臣・井上次官 = 終戦工作に奔走

3. もしロンドン会議後「条約派・良識派」が海軍の主導権を掌握しその後「艦隊派」を抑えて陸軍主唱の日独伊三国同盟締結を阻止していれば、日米開戦は回避できたのではなかろうか?と史料





海軍大佐時代 (大正 5/12)



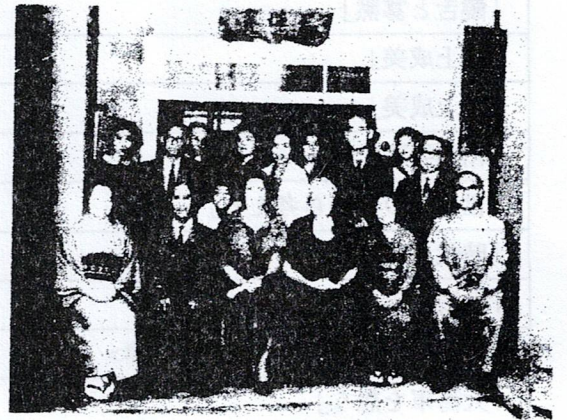
呉鎮守府司令長官時代  
(昭和 7/5)



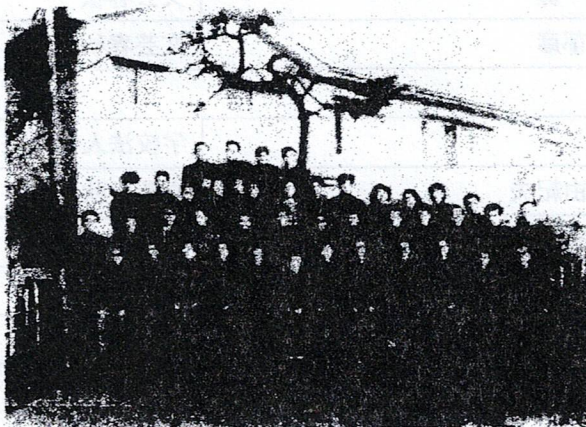
学習院長時代 (昭和 21/10)



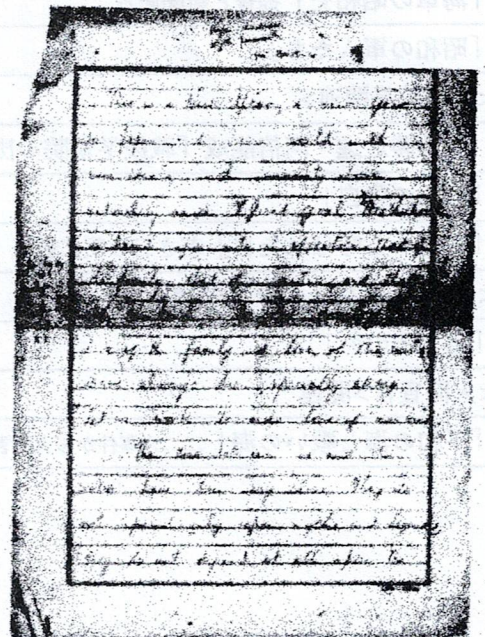
皇太子 (現上皇) とヴァイニング夫人



ヴァイニング夫人 五城寮訪問 (昭和 32/秋)  
前列左 2 番目:山梨舎監 3 番目:ヴァイニング夫人



五城寮卒寮記念 (昭和 30/2)  
中央: 山梨舎監ご夫妻



「人間宣言」英文草稿 (昭和 20/12)

## 参考文献

書 籍	著 者	発 行 社
<全般>		
「山梨勝之進先生遺芳録」	山梨勝之進先生記念出版委員会	
「仙台育英会五城寮記念誌」 (財)仙台育英会 100年の歩み	仙台育英会五城寮記念誌編集委員会	
「山梨勝之進先生を偲ぶ」	一力英夫 (注:五城寮先輩)	河北新報(昭和43.1.17付)
「百年の日本人・山梨勝之進」	袖井林二郎 (注:五城寮先輩)	読売新聞
「歴史と名将」歴史に見るリーダーシップの条件	山梨勝之進	毎日新聞社
「海軍と日本」	池田 清	中央公論社
「山梨勝之進」海軍良識派の支柱	工藤美知尋	芙蓉書房出版
「海軍良識派の研究」日本海軍のリーダーたち	工藤美知尋	光人社
「歴代海軍大将全覧」	半藤一利他	中央公論新社
「帝国海軍提督総覧」歴史と旅平成2/10号		秋田書店
「日本海軍艦隊総覧」別冊歴史読本1990秋号		新人物往来社
「饒舌と寡黙」	橋口 収	サイマル出版会
「井上成美」	井上成美伝記刊行会	
「井上成美」	阿川弘之	新潮社
<米国視関連>		
「世界史の中から考える」	高坂正堯	新潮社
「時代の終わりのとき」	高坂正堯	中央公論社
「私観太平洋戦争」	高木惣吉	文芸春秋
<ワシントン・ロンドン会議関連>		
「大海軍を想う」	伊藤正徳	文芸春秋
「倫敦軍縮会議」へ	石丸藤太	萬里閣書房
「日本海軍失敗の研究」	鳥巢健之助	文芸春秋
「海軍軍令部」	豊田 穰	講談社
「海軍の昭和史」提督と新聞記者	杉本 健	文芸春秋
「昭和の軍人たち」	秦 郁彦	文芸春秋
<学習院長関連>		
山梨勝之進・阿倍能成「戦後学習院の出発」		学校法人学習院
「仮面の告白」	三島由紀夫	文芸春秋
「ジミーと呼ばれた日」若き日の明仁親王	工藤美代子	恒文社
<ミセス・ヴァイニング関連>		
「皇太子の窓」	E・ヴァイニング	文芸春秋
<人間宣言>関連		
「平和の海と戦いの海」二二六事件から人間言まで	平川祐弘	新潮社

山梨勝之進略年譜

年 月 日	齢	階級	事 項
明治 10(1877)/7/26			宮城県仙台市で出生
28(1895)/1/29	17		海軍兵学校入学(25期生・席次 5/36)
30(1897)/12/18	20		海軍兵学校卒業(席次 2/32)・海軍少尉候補生
33(1900)/5/15	22	少尉	英国で建艦中の戦艦「三笠」の回航員となり英国に出張 (明治 35/5/18 横須賀着)
37(1904)/10/6	27	大尉	二等戦艦「扶桑」(第三艦隊)航海長 (明治 38/8/5) ・・明治 38/5/27~28 日本海海戦に参戦
39(1906)/1/26	28	大尉	海軍大学校将校科甲種学生(第 5 期) (明治 40 年卒業)
41(1908)/2/20	30	大尉	海軍大臣(斎藤実中将 6)秘書官 (明治 43/3/1)
7/31	31	大尉	軍事参議官山本権兵衛大将 2 附属 (明治 43/3/1)
大正 3(1914)/9/16	37	中佐	英国東洋艦隊に乗艦し対独戦役に服務
5(1916)/2/21	38	中佐	欧州戦線視察の為秋山真之少将 17 に随行し欧米各国に出張
6(1917)/12/1	40	大佐	巡洋戦艦「香取」(第三艦隊)艦長 (大正 7/11/1) ・・大正 7/8/22 シベリア出兵掩護で露国領沿海洲方面に戦地服務
7(1918)/12/1	41	大佐	海軍省軍務局第一課長 (大正 10/8/17) ・・当時の皇太子(昭和天皇)訪欧計画に参画
10(1921)/9/27	44	大佐	ワシントン海軍軍縮会議全権委員随員 ・・加藤友三郎首席全権を補佐し米国の西太平洋進出策を阻止
10(1921)/12/1	44		海軍少将 ~横須賀鎮守府参謀長.海軍省人事局長.横須賀海軍工廠長を歴任
12(1923)/12/1	46		海軍中将
15(1926)/12/10	49	中将	海軍省艦政本部長 (昭和 3/12/10)
昭和 3(1928)/12/10	51	中将	海軍次官 (昭和 5/6/10) ・・ロンドン海軍軍縮条約締結に孤軍奮闘し海軍軍縮に貢献 「条約派・良識派」の先駆者と称される
5(1930)/12/1	53	中将	佐世保鎮守府長官 (昭和 6/12/1)
6(1931)/12/1	54	中将	呉鎮守府長官 (昭和 7/12/1)
7(1932)/4/1	55		海軍大将
8(1933)/3/11	55		予備役
14(1939)/10/7	62		学習院長 (昭和 21/10/5) ・・①当時の皇太子(現上皇陛下)の御教育に当たる 戦後は学習院存続に尽力 ②昭和天皇の「人間宣言」には黒衣の役割を果たす ③皇太子の英語家庭教師に米国人ミセス.ヴァイニングを推挙
21(1946)/10/4	69		東宮御教育参与 (昭和 23/10/26)
25(1950)/11/1	73		仙台育英会五城寮舎監 (昭和 33/8/20) ・・郷党子弟の育成指導に当たる
34(1959)/5/26	81		海上自衛隊幹部学校で講話開始 (昭和 41/11/21)
39(1964)/7/26	87		学習院名誉院長
41(1966)/11/3	89		宮杖(鳩杖)御下賜
42(1967)/12/17	90		逝去 叙従二位

最後に

1. 吾の歴史学習に於ける古人の金言

- ① 「歴史とは只学に非ず 歴史から何を学ぶのかが肝要である」 海軍大将 山梨勝之進(日本)
- ② 「歴史とは現代と過去との間にある尽きる事を知らぬ対話である」 歴史政治学者 E.H カー(英国)
- ③ 「愚者は経験に学び 賢者は歴史に学ぶ」 鉄血宰相ビスマルク(独国)

2. 今日の発表内容.レジュメ等にご質問.疑問.誤謬.反論等が有りましたら下記愚生メールご連絡ください  
愚生の判明出来る範囲で回答申し上げます

E-mail address:hamadash1945@gmail.com

<番外編>吾の独り言(独断.偏見)! 「ロシアのウクライナ侵攻/第四弾」

1. たった3年前世界を震撼させたロシアによるウクライナ侵攻は
  - ① アメリカ新大統領に Trump の返り咲き  
「もしトラ」⇒「ほぼトラ」⇒「かく(確)トラ」の現実化
  - ② パレスチナ/ガサ地区の限定的な停戦合意等により色褪せた感がある
2. 就任後1か月で紛争中止を豪語していた Trump は今の所(2/7 現在)「ウクライナ紛争」問題の進展は無し

吾思うに今の Trump の頭の中は

- ① 関税問題(対中国.対カナダ.対メキシコ)が最優先
  - ② "America First"を第一とする Trump にはヨーロッパの片隅の紛争問題には「我関せず」か!
3. しかし3/1 迄には劇的に変動する可能性もあり

変動-1<私見>当事国ウクライナを neglect しロシア/プーチン大統領と一方的に裏取引

- ① ウクライナ領である現ロシア実効支配地域のロシア編入(ロシアの衛星国家建設)を承認
- ② ウクライナの NATO 加盟を拒否  
・・全面的にロシアの言い分を承認

変動-2<私見>Trump 米国大統領主導による当事国ウクライナ.ロシア.米国三国による和平会談開催

- ① ウクライナは現ロシア実効支配地域(現ウクライナ領)を放棄しロシアに割譲
- ② ウクライナの NATO 加盟実現  
・・ウクライナにとっては「名を棄て(=国土放棄) 実を取る(=NATO 加盟)

<手前味噌> 変動-2 は「吾の独り言:第一.第二.第三段」で再三記述済

変動-2 は正に山梨勝之進曰く

「国際会議とは 参加国が皆不公平であればその会議は成功

どこか一カ国でも得した国があれば会議は不成功と言わねばならず」

・・「互譲の精神」が肝要

<私見>もし変動-2 で和平会談で平和が実現したら Trump はノーベル平和賞受賞対象者となろう

それが現実化になれば21世紀最大の「茶番劇」になるであろう!

## 山梨勝之進の略歴

- 1.明治 10(1877) 宮城県仙台市で出生・・・旧仙台伊達藩家臣の家系
  - 2.明治 33(1890) 日露戦争直前英国で建艦中の戦艦「三笠」の回航委員となり英国に出張  
日露戦争中は二等戦艦「扶桑」の航海長として日本海海戦に参戦
  - 3.大正 10(1921) ワシントン海軍軍縮会議の全権委員随員として条約締結に寄与
  - 4.昭和 5 (1930) ロンドン海軍軍縮会議では海軍次官(実質海軍大臣)の重責を担い条約締結に孤軍奮闘し  
世界平和軍縮に貢献 のち「条約派」(今で言うところの「ハト派」)の先駆者と称される
  - 5.その後佐世保.呉の各鎮守府司令長官の要職を歴任 昭和 7 年(1932)第 47 代海軍大将に昇進
  - 6.昭和 8 (1933) 予備役  
・・・「条約派」vs「艦隊派」抗争の犠牲者か!
  - 7.昭和 14(1939) 学習院長に就任し当時の皇太子(現上皇)の御教育の任に当たる
  - 8.昭和 21(1946) 昭和天皇の「人間宣言」起草ではその黒衣役を務める
  - 9.昭和 21(1946) 現上皇の皇太子時代の英語家庭教師に米国人ミセス.ヴァイニングを推挙
  - 10.昭和 25(1950) 73 歳にして仙台育英会五城寮の舎監となり郷党子弟の育成に当たる  
・・・昭和版松下村塾を目指す
  - 11.昭和 27(1952) 水交会初代会長に就任し英霊顕彰.遺族援護.戦犯処遇等の諸問題対応に東奔西走  
又戦後荒廃した記念艦「三笠」(在横須賀)の復元に尽力  
・・・山梨の胸像が艦入口に安坐
  - 12.昭和 41(1966) 宮中杖(鳩杖)ご下賜 ・・・昭和天皇に最も信頼が篤かった人物
  - 13.昭和 42(1967) 逝去(享年 90 歳) 特旨を以て位一級進み従二位に叙せられる
- <私事>吾にとって山梨勝之進は「海軍大将」であると言うよりは仙台育英会五城寮の「舎監先生」であり  
当時の寮生も今でも「先生」と敬慕している

「～御立场上甚ダ困難トハ存ズルモ 願ハクバ現下ノ情勢ト利害ノ分カルル所ヲ御賢察ノ上 コノ際ハ  
国家大局ノ上ヨリシテ忍ヒ難キヲ忍ヒテ御自重 全権トシテ御任務ヲ全ウセラレンコトヲ懇願スル次  
第ナリ 以上小官トシテハ分ヲ超エタルコトニシテ 誠ニ恐懼ニ堪ヘザル次第ナルモ コノ重大ナル  
時ニ直面シ国内諸般ノ情勢ニ鑑ミ 敢テ尊厳ヲ冒シテ微衷ヲ披瀝スル次第ニツキ 願ハクバ御清鑑ヲ  
賜ランコトヲ」